

## 地域住民が学校活動に参加

### コミュニティ・スクールを調査

#### 総務文教 県外調査

11月10日と11日に、秋津小学校(千葉県習志野市)と赤羽台西小学校(東京都北区)で、コミュニティ・スクールの調査を行いました。

は、教育委員会が任命する保護者や地域住民などで構成する学校運営協議会に、学校の運営方針の承認や教育活動に意見できるなど一定の権限が与えられます。今まで以上に保護者や地域住民の声が学校に反映できるようにになります。



元気な子どもたちと一緒に(秋津小学校)

当町でも推進協議会を立ち上げ、その指定をめぐっています。

秋津小学校は、全国に先がけてコミュニティ・スクールを実践しています。会議は年3回ですが、そのほかに地域・家庭の状況などを学校に反映するため、環境、学習、安全、情報の4分野で地域住民がボランティア

アとして支援しています。今後は、地域住民の高齢化、少子化が進むため、この活動を継続できるかが課題になります。

赤羽台西小学校は平成26年4月にコミュニティ・スクールの指定を受けたばかりです。協議会は年4回開催し、さらに活動支援、心



首藤教頭から活動内容の説明を受ける(秋津小学校)



協議会での議論を活動に生かす(赤羽台西小学校)

の教育、安全安心の3つの分科会で支援しています。今後は、会議型から行動型の活動を行うことが課題で、その体験を共有し、協

議会形式でよくあるお任せ主義を解消することが課題になります。

(報告者 浅野富男)

## 災害の教訓を生かした防災対策

### きめ細かな対応マニュアルなどを調査

#### 産業厚生 県外調査

11月17日と18日、新潟県三条市で豪雨災害への対策の調査を行いました。

三条市は、平成16年7月に1時間85mmの集中豪雨で市内五十嵐川の氾濫やがけ崩れなどで死者9名、床上浸水513戸の被害がありました。



災害を教訓にした対応を学ぶ(三条市役所)

この被害をきっかけに、災害対策室を設置し、被害の分析、河川の改修、堤防のかさ上げを実施しました。また、情報伝達の迅速化、数値による避難基準の明確化、行政、市民、自治会それぞれの対応マニュアルを作成するなど対策に取り組みました。

道の駅の経営状況も調査  
(三条市・道の駅漢学の里しただ)



その結果、平成23年7月の豪雨では降雨量が平成16年の約2倍にもかかわらず、死者1名、床上浸水13戸と被害を最小限に抑えることができました。

— 当町でも防災訓練などは実施していますが、自助、共助、公助に分かれたきめ細かなマニュアルが必要だと感じました。

そのほか、三条市内にある「株式会社スノーピーク本社」の施設と「道の駅漢学の里しただ」の経営状況なども調査しました。

(報告者 渋谷福重)

# 町内の復興状況などを調査

## 3・11大震災復興対策特別委員会調査

12月11日、特別委員会で新庁舎の建設など4カ所の調査を行いました。

J A 国見共選場で行われているあんぼ柿の全量非破壊検査は、昨年より多い5台の検査機で実施しています。しかし、1箱の検査時間は80秒以上もかかり、出荷の最盛期や生産制限が解除された後の検査体制に課題が残ります。

役場庁舎の建設は、3階までコンクリート工事が終わり、議場や会議室の広さなどが確認できました。議場の机は可動式になり、議会以外でも多目的に使用でき、利便性が高くなります。

県北浄化センターに建設される仮設汚泥乾燥施設は、乾燥機械が入る建物など3棟の建設がほぼ完成し、機器類も設置されました。今後は、試運転をし、4月から稼働できる見込みです。

森江野方部2号仮置き場は、徳江字江添地内に約1万6000平方メートルが整備され、すでに搬入を開始しています。森江野地区の除染で出た除去土壌などは2カ所の仮置き場にすべて搬入できる見込みです。

(報告者 松浦常雄)



新庁舎内部を調査 (新庁舎建設現場)



あんぼ柿の検査を調査 (JA国見共選場)



仮設汚泥乾燥施設の建設を調査 (県北浄化センター内)